

韓国 リンゴ生産の危機に直面

[FreshPlaza 2024年3月15日](#)

韓国は、差し迫った問題に取り組んでいる。リンゴの不足が価格の高騰につながり、「アップレーション*」危機と呼ばれている。リンゴの卸売価格は5,414ウォン(4.11ドル)/kgに急騰し、前年比97.33%という驚異的な上昇率を記録した。このリンゴ価格の急騰は、生鮮果実全体の価格が前年比41.2%と大幅に上昇し、過去30年間で最大の高騰となった要因ともなっている。(*: アップル+インフレーションの造語)

この危機の根本的な原因は、多くの要因に関係する。2023年の韓国のリンゴ生産量は、主に悪天候により、また気候変動によってさらに悪化し、前年比で30%急落した。春の降霜、寒波、頻繁な降雨、リンゴ炭疽病の発生により、リンゴの生産が著しく妨げられ、市場では大幅な不足が発生している。

さらに、リンゴ栽培の分野にも課題が山積している。気候変動の影響により、リンゴ栽培に理想的な地域が徐々に変化し、従来からの産地が存続しにくくなっている。特に、かつてはリンゴの主産地であった大邱広域市や慶尚北道などの(東部)地域では、リンゴの栽培面積が減少している。逆に、江原道(東北部)ではリンゴ園が急増しており、同国のリンゴ生産の状況の変化を示唆している。

これらの課題をさらに悪化させているのが、果実の輸入に関する韓国の厳しい規制である。国内生産が減少しているにもかかわらず、厳しい規制により外国産のリンゴの輸入が妨げられ、品不足を悪化させ、価格の高騰を後押ししている。

この先、韓国のリンゴ産業の見通しは引き続き暗い。気候変動の長期的な影響は、リンゴ生産者の高齢化と相まって、厳しい状況を描き出している。これらの課題に対処するためには、変化する気候条件に適応した農法の実施や、市場へのリンゴの安定供給を確保するための輸入規制の見直しなど、緊急の対策が必要である。断固とした行動をとらなければ、「アップレーション」の危機がさらに悪化し、消費者と生産者の両方に等しく悪影響を及ぼす可能性がある。

出典: kedglobal.com

(関連記事)韓国 価格高騰の中、政府はリンゴ等の輸入禁止を維持

[FreshPlaza 2024年3月11日](#)

韓国では、果実価格の大幅な上昇にもかかわらず、政府は病害虫の蔓延への懸念を理由に、リンゴとナシの輸入規制緩和に反対する断固たる立場を表明した。2月の韓国統計庁のデータによると、リンゴ、ミカン、ナシなどの生鮮果実の価格は前年同月より41.2%高くなり、1991年9月以来の大幅な上昇を記録した。この急騰は、リンゴの生産量の減少によるところが大きく、リンゴでは前年比71%の価格上昇が見られた。果実価格の上昇によるインフレ圧力は、2月の消費者物価指数に0.57%ポイント寄与しており、全般的なインフレに大きな影響を与えている。

差し迫ったインフレの懸念にもかかわらず、植物検疫措置を優先する政府は、これらの果実の輸入政策を修正するつもりがない。宋美玲農林畜産食品部長官(農業大臣に相当)は、リンゴを輸入しても前年の不作による価格高騰を直ちに緩和することはできないと強調した。

ただし、政府はリンゴの輸入について11か国との交渉を模索しており、日本との交渉が最も進んでいる*。一方、国内の果実不足を緩和するための措置としては、果実の割引支援の拡大や、関税を払えば輸入できる輸入果実の範囲の拡大などがある。また、次の収穫期までの消費者の需要を満たすために、オレンジやバナナの直接輸入や、「見た目の悪い」果実の供給にも力を入れる。

出典: koreaJoongAngDaily.joins.com

* 訳注: 出典元の記事では、「リンゴの輸入交渉は11か国と行われており、8段階が必要で、日本は第5段階にあり最も進んでいる。農林畜産食品部によると、日本は1992年に韓国へのリンゴ輸出の許可を要請し、2010年から2015年まで輸入リスク分析を行った後、無期限に停止した。ドイツとニュージーランドは第3段階、米国は第2段階である。」としています。